

- パイロット事業(実証実験)は、コンサルタント等の専門家のアドバイスのもと、実験に参加するトラック運転者の長時間労働等の改善を図るものである。以下のように、①荷主及び運送事業者の現状の分析、②課題の洗い出し・課題に対する解決手段の検討、③解決手段の実証実験、④検証等を行う。
- この事業で明らかになる課題や解決策は、平成30年度に取りまとめるガイドラインに反映し、横展開することで、トラック業界全体の長時間労働是正につなげる。

現状分析

・兵庫(ハブ拠点)から島根県内センターまでの輸送を対象とする。

・出発・到着時間、場所は毎日一定となる輸送特性を有している。(定期便)

・改善基準告示を超過するケースはないが、荷役作業に時間を要する問題を抱えている。

・積み込みバースは、専用バースがあり、待機時間は問題となっていない。

<参加集団>

- 元請運送事業者 ア
- 実運送事業者 イ
- 元請運送事業者 ア

課題の洗い出し 解決手段の検討

現状分析を踏まえ、当該集団の課題を設定し、この課題を解決する手段を検討する。

<課題>

- 荷役作業時間
 - ・ 貨物の形状の相違があり、手作業により積、卸し作業がなされており作業時間を要している。
 - ・ 貨物はハンディ端末により検品作業がされているが、原則全ての貨物のバーコードをスキャンして積み込みするため、長い作業時間を要している。
 - ・ 方面別の貨物仕分け作業についても、ドライバーが関与しているため、附帯作業時間の長時間につながっている状況にある。

実証実験

設定した課題に対する解決策を実証する。

<実験>

- 貨物の自動仕分機器を導入し、仕分作業及び検品作業を簡素化する
- ・ 大きさの小さな貨物の仕分け作業を自動仕分け機により分別し、ハンディ端末による検品作業を削減することで、ドライバーの作業時間を削減する
- ・ 小さな貨物の仕分作業に係る作業時間を削減することで、作業時間を削減し、運転者の労働時間を削減することを目指す。

実験結果検証

6~10月

11~12月頃

1月以降



方面別の貨物の仕分けを
人手により実施している



- ・ラックでまとめる貨物は、小さな貨物である
- ・小さな貨物のハンディ
端末検品作業に時間を
要している



全ての貨物をハンディ
端末で処理している

